

2020年度

事業報告書

事業報告の附属明細書

公益財団法人かわさき市民活動センター

目 次

事業報告書

1 当法人の現況に関する事項	1
(1) 事業の経過及びその成果	1
(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況	1
(3) 主要な事業内容	2
(4) 重要な契約に関する事項	2
(5) 職員に関する事項	2
(6) 役員会等に関する事項	2～3
2 役員等に関する事項	4
(1) 理事	4
(2) 監事	4
(3) 評議員	4～5
(4) 退任した役員	5
(5) 役員等の報酬	5

事業報告の附属明細書

I 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況…	6
II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】…	6
1 市民活動推進事業	6～16
2 青少年健全育成事業	17～39
3 法人の運営	40

事業報告書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

はじめに

当財団の使命は、「川崎市における市民活動支援の中間支援組織として市民相互の連携を図りながら市民活動の活性化を促進するとともに、青少年の心身の健全な育成を図るため、青少年事業の推進及び地域組織への支援を行い、もって住みよい地域社会の確立に寄与する」ことが定款第3条に定められています。

2020年度においても「市民活動推進事業」及び「青少年健全育成事業」を2本の柱として、地域の関係団体や関係機関と連携した事業展開を図りました。

「市民活動推進事業」では、市民活動が活発になり市民創発を促すことを意識し、情報発信、講座、交流、専門相談、助成金等の各事業の連携と相乗効果を目指しました。加えて、コロナ禍の下、全市・全領域の市民活動支援組織として、市民活動団体等が直面した課題への対応、新たな支援の検討と実践に取り組みました。また、施設運営においても利用者にとって安心・安全な施設となるようさまざまな対策を講じました。

「青少年健全育成事業」では、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所となるよう、多彩な事業を実施しました。2019年度から5年間の指定管理者として、こども文化センター53館及びわくわくプラザ102校について仕様に即した安定した運営を行うとともに、こども文化センターの団体利用の拡充に向けた施設利用の推進などを含め事業を進めました。加えて、新型コロナウイルス感染症対策として、衛生管理を強化するとともに、利用時間、定員、活動内容や行事内容等について、段階的に運営を行いながら感染予防に努めました。

また、法人として、確実な組織運営と健全な財政運営に基づいた経営を進めながら、公益目的事業の推進を図ってきました。ただし、2020年度は、コロナ禍での事業運営という今までに経験したことがない状況の中で、会議及びイベントの中止、事業の縮小、施設の閉館など、事業の運営上、様々な制約や影響を受けたことも事実でした。感染拡大が留まる気配がない中で、引き続き職員の安全安心を含めて今後の事業運営を円滑に進めていくことが、重要で喫緊の課題となっています。

1 当法人の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

(単位:千円)

事業別【経常収益】	予算現額	執行済額	執行率
市民活動推進事業	96,934	90,282	93.14%
青少年健全育成事業	3,131,688	3,081,914	98.41%

(2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位:千円)

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (当事業年度)
経常収益	3,018,763	3,078,087	3,230,523	3,218,700
当期経常増減額	△15,600	△52,817	39,348	4,214
正味財産期末残高	283,046	230,248	269,536	273,618

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none">・市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業・市民活動に関する調査・研究事業・市民活動に関する人材育成及び相談事業・市民活動の促進・支援事業・関係機関・関係団体等との連携・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none">・青少年の健全育成に関する事業・青少年施設の管理運営の受託・関係機関・関係団体等との連携・その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）

(4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2020年4月1日	川崎市	合計 2,756,869,843 円	2020.4.1 から 2021.3.31 まで	川崎市こども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

(5) 職員に関する事項

(2021年3月31日現在)

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局 長	亀田 俊夫	2020.4.1	事務局の総括	重要な使用人
総務課 長	服部 拓治	2020.4.1	課の総括	
市民活動推進課長	犬塚 裕雅	2017.4.1	〃	(参事)
青少年事業課長	三ッ木 純子	2020.4.1	〃	
青少年事業課主幹	島 忍	2010.10.1	エリアマネージャーの総括	
その他の職員（派遣職員を除く。）				1,843 人

(6) 役員会等に関する事項

ア 理事会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
決議の省略	2020年 4月10日 (決議があったとみなされた日)	提案事項 第1号議案 令和2年度第1回評議員会の開催について 決議の省略の方法により行う。	全員の同意

第1回 決議の 省略	2020年 5月29日 (決議があつ たとみなされ た日)	提案事項 議案第1号 2019年度事業報告及び決算について 議案第2号 2020年度5月補正予算について 議案第3号 2020年度第2回評議員会の開催につい て 議案第4号 協定書締結の専決処分の承認について	全員の同意
第2回	2020年 6月25日	議案(決議事項) 議案第1号 理事長の選定について 議案第2号 副理事長及び常務理事の選定について 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告(報告事項) 報告第1号 新型コロナウイルス感染症に伴う臨時職員 に対する休業手当の支給について 報告第2号 新型コロナウイルス感染症における臨時職 員の有給休暇に対する特例措置について	可決 可決 了承 了承
第3回	2020年 11月27日	議案(決議事項) 議案第1号 2020年度第3回評議員会の開催 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告(報告事項) 報告第1号 2020年度上半期の事業等	可決 了承
第4回	2021年 3月12日	議案(決議事項) 議案第1号 規則の廃止及び制定 議案第2号 2021年度事業計画書 議案第3号 2021年度収支予算書等 議案第4号 2021年度第1回評議員会の開催 理事長及び常務理事の職務の執行状況の報告(報告事項) 報告第1号 職員採用選考及び昇任試験の結果	可決 可決 可決 可決 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 題	会議の結果
第1回 報告の 省略	2020年 4月20日 (報告があつ たとみなされ た日)	通知事項 報告第1号 規則の改正について 報告第2号 令和2年度事業計画について 報告第3号 令和2年度収支予算等について 報告第4号 重要な使用人の選任及び解任について 報告第5号 職員採用選考及び昇任試験の結果について 報告第6号 小学生向け推薦図書の寄贈について	全員の同意
第2回	2020年 6月25日 (定時評議員会)	議案(決議事項) 議案第1号 2019年度事業報告及び決算について 議案第2号 理事の選任について 議案第3号 監事の選任について 報告事項 報告第1号 2020年度5月補正予算について 報告第2号 協定書の締結について	可決 可決 可決 了承 了承
第3回	2020年 12月10日	報告事項 報告第1号 2020年度上半期の事業等	了承

2 役員等に関する事項

(2021年3月31日現在)

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	2020.6.25 から 2022.6 定時評議員 会の終結の時まで	常勤	有	LET'S 国際ボランティア交流会 代表
副理事長	鈴木 眞智子	〃	非常勤	〃	特定非営利活動法人 水・防災機構 理事長
副理事長	福田 武雄	〃	〃	〃	川崎市青少年育成連盟 副理事長
代表理事 (常務理事)	安藤 勲	〃	常勤	〃	元川崎市議会局長
理事	岡本 義雄	〃	非常勤	〃	川崎市全町内会連合会 理事
〃	加藤 妙子	〃	〃	〃	おと絵がたり 代表
〃	日吉 のぞみ	〃	〃	〃	川崎市PTA連絡協議会 副会長
〃	福芝 康祐	〃	〃	〃	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 事務局長
〃	宮津 健一	〃	〃	〃	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 副理事長
〃	蠟山 優二	〃	〃	〃	川崎市レクリエーション連盟 副会長

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	岩森 耕太郎	2020.6.25 から 2022.6 定時評議員 会の終結の時 まで	非常勤	有	特定非営利活動法人 かわさき MOVEARTOO隊 理事長
〃	志村 佳徳	〃	〃	〃	税理士

(3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤 非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	齊藤 準	2018.6.21 から 2022.6 定時評 議員会の終結の 時まで	非常勤	有	特定非営利活動法人 川崎市視 覚障害者福祉協会 理事
〃	佐治 克哉	〃	〃	〃	元川崎フロンターレ後援会 常務理事
〃	菅原 陽子	〃	〃	〃	夏菟太鼓 代表
〃	竹井 斎	〃	〃	〃	特定非営利活動法人 アクト川崎 理事長
〃	土澤 稔	〃	〃	〃	元川崎市立中学校校長
〃	永津 英二郎	〃	〃	〃	税理士
〃	仁藤 公子	〃	〃	〃	元川崎市立小学校校長

評 議 員	前 田 成 東	2018.6.21 から 2022.6 定時評 議員会の終結の 時まで	非常勤	有	東海大学教授
”	谷 島 義 雄	”	”	”	宮前区子ども会連合会 会長

(4) 退任した役員

氏 名	退 任 時 の 地 位	退 任 日	退 任 理 由
新 藤 み ゆ き	理 事	2 0 2 0 年 6 月 2 5 日	任期満了
深 瀬 浩 由	理 事	”	”
吉 田 輝 久	理 事	”	”

(5) 役員等の報酬

区 分	人 数	報 酬 の 総 額	備 考
理 事	1 0 人	6,208 千円	常勤及び非常勤
監 事	2 人	96 千円	非常勤
評 議 員	9 人	128 千円	非常勤
合 計	2 1 人	6,432 千円	

注 1 ; 理事、監事及び評議員の報酬額は、2 0 1 4 年 1 2 月 8 日開催の評議員会において了承された「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

2 ; 評議員の報酬の限度額は、定款第 15 条において、毎年度総額 30 万円を超えないものとされている。

事業報告の附属明細書 ‹‹ 2020年度事業報告 ››

(2020年4月1日～2021年3月31日)

I 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

役員の主な他の法人等の代表状況等については、4頁「2 役員等に関する事項」のとおりです。

II 事業の実施状況について補足すべき重要事項【事業の概要】

1 市民活動推進事業

コロナ禍の下、全市・全領域の市民活動支援組織として、市民活動団体等が直面した課題への対応、新たな支援の検討と実践に取り組みました。

(1) 活動拠点施設運営事業

今年度の利用登録団体数は、新規63団体、計777団体でした。

施設・設備名	2019年度		2020年度		前年度同期比較(増減)	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
会議室 A	563 団体	5,611 人	319 団体	2,627 人	△244 団体	△2,984 人
会議室 B	493 団体	4,503 人	289 団体	2,115 人	△204 団体	△2,388 人
印刷室	547 団体	1,097 人	294 団体	554 人	△253 団体	△543 人
フリースペース	4,108 団体	17,882 人	1,117 団体	4,564 人	△2,991 団体	△13,318 人
パソコン(2台)	419 団体	812 人	227 団体	436 人	△192 団体	△376 人
ロッカー・大(90台)	89 台		90 台		1 台	
ロッカー・小(9台)	8 台		9 台		1 台	
レターケース(54台)	40 台		50 台		10 台	
市民活動ブース 1	認定NPO法人キーパーソン 21				/	
市民活動ブース 2	Women's body labo					
市民活動ブース 3	おと絵がたり					
市民活動ブース 4	ランドヌ東京					
市民活動ブース 5	一般社団法人だじゃれ活用協会		川崎市 あゆみの会			
施設・設備等利用合計	6,130 団体	29,905 人	2,246 団体	10,296 人	△3,884 団体	△19,609 人

新型コロナウイルス感染症拡大による政府の緊急事態宣言発令を受けて、4月11日～5月31日までの約2か月間、施設利用を休止(休館)としました。6月1日(月)からは段階的に施設利用を再開しましたが、7月6日(月)からは日曜・祝日の夜間のみ閉館としています。

また、フリースペースは3密回避のためにテーブルと椅子の減数及び利用にあたり事前予約制とするなど、利用者にとって安心・安全な施設となるよう対策を講じました。

(2) 情報提供・啓発事業

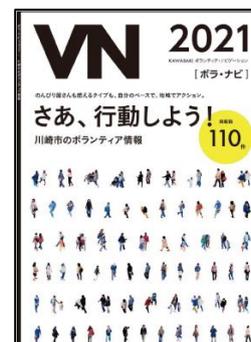
ア 情報紙「ナンバーゼロ」の発行

市民活動団体に有益な情報を提供するため、隔月5,000部を発行し、関係団体、市内公共機関に配布しました。また、利用登録団体のうち希望する79団体へ郵送しました。

特集では、コロナ禍における団体の動き、コロナ影響調査結果報告、センターの取り組み、拠点を持つこと、ボランティア募集などについて取り上げました。

イ ボランティア・市民活動募集冊子「ボラ・ナビ」の発行

市内のボランティア募集情報を掲載した冊子「ボラ・ナビ2021」を川崎市社会福祉協議会と共同で5,000部発行し、市内関係機関・団体、学校等に配布しました。さらに、新規読者層を獲得するため、市民活動の現場を詳しく紹介するページを設けました。



ボラ・ナビ2021

ウ 神奈川新聞へのコラム「市民発」の連載

市民が市内の市民活動を知る機会として、27人の市民記者の取材・執筆による記事を、神奈川新聞の協力を得て「市民発 地域をつくる人・活動」と題したコラムに連載しています。2020年度はコロナ禍の影響で紙面構成が変わり、変則掲載（隔週木曜日）で24回掲載しました。

エ 市民活動ポータルサイト「応援ナビかわさき」の運営

市民活動団体が市民向けに提供するイベント・講座、ボランティア募集などの最新情報を掲載し、年間のアクセス総数は42,470件（月平均で約3,539件）でした。「応援ナビかわさき」の活性化を図るため、利用を促すチラシを利用登録団体へ送付しました。

メールマガジンをメルマガ会員（290人）あてに年12回配信しました。

オ 市民活動推進事業ウェブサイトの運営

年間のアクセス総数は209,016件（月平均17,418件、前年度比約1.2倍）でした。

2020年度では、コロナ禍の支援策を兼ねて新たに Youtube チャンネルを開設し、新企画の「動画で2分間アピール」として17団体の動画を公開しました。さらにつながるマルシェ（市民活動マルシェ）当日の様子を配信しました（詳細は8頁参照）。



動画で2分間アピール

ウェブサイトと Facebook を連動させた情報発信力の増幅を意識し、ウェブサイトと Facebook の両方でイベント・講座等の告知に加えて、Facebook で当日の様子を文章・写真・動画で生発信しました。

そのほか、始めて3年目の「U-50（アンダー50）」では、市内の若手エースをリレー形式で新たに11人紹介しました。

9月にウェブアクセシビリティ試験を実施した結果、「A一部準拠」となりました。その後、指摘のあった箇所については修正を行いました。

カ 事業成果報告書の発行

市民活動推進事業の半期ごとの成果を「見える化」「伝える化」し、市民からの共感と支持を広く得るため、事業成果報告書を6月と12月に各800部発行し、賛助会員、関係団体および市内公共機関に送付しました。

(3) 調査研究事業

新型コロナウイルスに係る団体活動への影響等調査の実施

新型コロナウイルスが、市民活動団体にどのような影響を与えたかなどを調べ、センターの事業の参考とするための調査を3回実施しました（2020年3月・7月・12月）。1回目は123団体、2回目は121団体、3回目は171団体の回答があり、結果を市民活動推進事業ウェブサイト及びナンバーゼロに掲載しました。

(4) 活動促進事業

ア つながるマルシェ（市民活動マルシェ）の開催

9月26日（土）に予定していたごえん楽市は、新型コロナウイルスの影響により中止しました。

代替企画として、団体の活動紹介の機会として「つながるマルシェ（市民活動マルシェ）」を2月28日（日）にオンラインで開催しました。5団体が参加し、Youtube ライブで活動紹介、Zoom でワークショップを行い、224回視聴されました。また、当日はNEC玉川プロボノ倶楽部の技術的な協力がありました。



マルシェの放送風景

イ ごえんカフェ（市民活動交流会）の開催

分野・領域・地域を越えた市民活動団体等の相互交流・連携の促進を図るため、ごえんカフェ（市民活動交流会）を10月31日（土）に開催し、21団体31人の参加がありました。

また、団体の悩みや困りごとについてテーマ別に話し合う場として、「ミニカフェ」を9月4日（金）・5日（土）に開催し、かわさき市民公益活動助成金スタートアップ及びステップアップ30の交付団体を対象として、7団体10人が参加しました。



ごえんカフェ

ウ デジカフェの開催

NEC玉川プロボノ倶楽部との合同企画で、市民活動団体向けの「市民活動のデジタル化についてリアルに語り合う場」（デジカフェ）を11月29日（日）・3月19日（金）に開催し、7団体8人が参加しました。

エ 大学と市民活動団体との連携・協働の支援

専修大学ネットワーク情報学部の授業で学生たちが市民活動団体（9団体）と一緒に広報媒体を制作する取組を支援してきました。

2月5日（金）に、学生がその成果を発表する「かわさきNPO映像交流会」をオンラインで開催しました。



かわさきNPO映像交流会

(5) 研修・人材育成事業

ア パワーアップセミナーの開催

市民活動団体向けのパワーアップセミナーを全11回開催しました。受講者アンケートによると、各講座への満足度は平均98.4%となりました。各回の概要については【13頁:別表1①】【14頁:別表1②】【14頁:別表1③】に記載しています。

イ Zoom会議運営セミナーの開催

NEC玉川プロボノ倶楽部との合同企画で、Zoom会議を主催した経験がある団体を対象としたセミナーを10月11日（日）にオンラインとリアルハイブリットで開催し、受講者は延べ45人（午前34人、午後11人）でした。

ウ NPO法人向けコロナ対策給付金セミナーの開催

NPO向け専門相談事業の一環として、東京地方税理士会との共催で11月28日（土）にオンライン開催し、受講者は6団体8人でした。

エ 市民記者ブラッシュアップ講座の開催

市民記者を対象に力量を高めるセミナーを3月17日（水）に開講し、受講者は12人でした。神奈川新聞川崎総局長を講師に、市民記者が手掛けた記事ゲラを教材に記事の熟度を高める要点を講義しました。

(6) 相談事業

ア 職員による市民活動相談の実施

ボランティア活動を始めたいという相談、団体の設立や運営に関する相談、企業からの社会貢献活動の相談など、市民活動全般に関わる相談をセンター職員が対応し、年間で31件の相談がありました。

イ 職員によるテーマ型相談の実施

パワーアップセミナーを受講した団体から相談が多い「広報」「チラシ作成」「情報発信」について、センター職員が無料で個別に相談にのる新規事業を9月から開始し、5件の相談がありました。

ウ NPO向け専門相談の実施

NPO向け専門相談の実績は以下のとおりです。また9月からは法律相談が加わりました。さらに、Zoomを利用したオンライン相談にも対応できるようになりました。

区 分	件 数	共 催
会 計 相 談	6 件	東京地方税理士会
法 務 相 談	2 件	行政書士オレンジ会（行政書士会川崎南支部有志）
	2 件	神奈川青年司法書士協議会
法 律 相 談	1 件	かわさきリーガルサポートひまわり（弁護士による任意団体）

(7) 連絡・調整事業

ア 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民文化局市民活動推進課との定例会を2回開催しました。

イ 中間支援ネットワーク会議の開催

市内の市民活動に係る中間支援ネットワーク会議を2回実施し、テーマを設定し情報交換を行いました。

開 催 日	内 容	参加団体	参加数
第 1 回 8 月 7 日	「コロナ禍における施設および事業の運営に係る対応と今後の課題」	4 団体	6 人
第 2 回 3 月 1 7 日	「コロナ禍における 2020 年度の事業の振り返りと今後の方針」	3 団体	4 人

ウ 川崎市社会福祉協議会との連絡調整会議の開催

4月14日に川崎市社会福祉協議会・ボランティア活動振興センターとの連絡調整会議を開催し、事業計画についての情報交換及び共催事業に関する調整等を行いました。

(8) 職員等派遣事業

各団体の要請に基づき、役員5回、職員18回を講師等として派遣しました。派遣先の主催者や対象者等については【14頁：別表2（ア）】【15頁：別表2（イ）】に記載しています。

(9) かわさき市民公益活動助成金運営事業

2020年度かわさき市民公益活動助成金運営事業の実施状況は、次のとおりです。

募集期間	2019年11月20日～2020年2月28日
審査委員会	第一次審査（書類審査） 3月2日
	第二次審査 5月16日
審査結果	スタートアップ助成 《申請20団体／交付19団体》
	ステップアップ助成（30・100・200）《申請38団体／交付33団体》
	コラボ50助成【新規メニュー】《申請7団体／交付5団体》
	組織基盤強化助成 《申請5団体／交付5団体》
	コロナのピンチをチャンスにする伴走支援助成【新規メニュー】 《申請6団体／交付6団体》
交付総額	14,877,337円 （内訳＝川崎市：11,552,337円・河川財団：3,325,000円）

2019年度公開事業報告会は中止とし、代替として6月から事業成果PRシートをフリースペース及び市内区役所で展示しました。

また、「スタートアップ助成」交付団体のうち10団体に対して、事業報告書作成に対する伴走支援を行ったほか、今年度初めての助成である「コラボ50助成」の交付団体のうち、4団体に対して事業が円滑に進むように専門家による伴走支援を行いました。

(10) 川崎市からの受託事業

ア 川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務

川崎市市民活動（ボランティア活動）補償制度の窓口業務を受託しました。2020年度の状況は、次のとおりです。

期 間	申請件数	支払件数	支 払 額	昨年度実績
2020年4月～2021年3月	21件	13件	289,600円	541,200円

イ 川崎市協働・連携ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」管理・運営事業

川崎市から、協働・連携ポータルサイト「つなぐっどKAWASAKI」のコンテンツ情報の拡充などを行う管理・運營業務を受託しました。

(11) 職員研修

職員の資質向上や必要とする知識習得等を目的に、市内外で開催される研修やシンポジウムなどに派遣しました。派遣した研修の内容等については【16頁：別表3】に記載しています。

(12) 賛助会員の確保

事業成果報告書を活用するなど新規会員の拡充に努めました。2020年度の収入状況は、次のとおりです。

種別	会費 (1口)	2019年度末			2020年度末		
		会員数	口数	賛助総額	会員数	口数	賛助総額
個人会員	1,000円	50人	131口	131,000円	51人	121口	121,000円
団体会員	5,000円	28団体	33口	165,000円	30団体	36口	180,000円
合計		78人・ 団体	164口	296,000円	81人・ 団体	157口	301,000円

(13) 募金・寄付等の取組

ボランティア・市民活動募金

募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者各店舗へ設置しています。募金箱その他を合わせて、2020年度は105,754円の寄付がありました。

(14) その他

ア 後援名義の使用許可

申請のあった8団体に対して、後援名義の使用を許可しました。

イ 川崎市社会福祉協議会会長表彰

「令和2年度川崎市社会福祉協議会会長表彰（社会福祉功労者）」に、「かわさき」プロジェクト+」を推薦し、受賞しました。

【別表1】パワーアップセミナー

①当センター単独開催セミナー

開催日	内 容		参加	開催場所
第 1 回 7月11日	テーマ	「伝えたい人」に「伝わる」情報発信のコツ	15 人	センター 会議室
	講師	谷 浩明（杉並区広報専門監、コミュニケーション・デザイナー）		
第 2 回 7月11日	テーマ	コミュニケーションが深まるイベント企画・運営のコツ	11 人	
	講師	たかはしあすか（ひとしずく株式会社）		
第 3 回 8月29日	テーマ	「だれでも」から「あなたに」届く集客チラシのコツ	14 人	
	講師	並木節子（センター職員）		
第 4 回 8月29日	テーマ	「寄付しようかな」の最後の一步を押すチラシづくりのコツ	13 人	
	講師	林田全弘（小さな NPO を応援するグラフィックデザイナー）		
第 5 回 9月19日	テーマ	共感・編集・実行で「にぎわいづくり」をはじめ	9 人	
	講師	くまがいけんすけ（株式会社はじまり商店街）		
第 6 回 10月10日	テーマ	いかす、つなぐ、しかもドラマチックに妄想する	10 人	
	講師	今村ひろゆき（まちづくり会社ドラマチック）		
特別講座 11月14日	テーマ	課題×地域×調べる＝社会調査 【午前】NPO が社会調査を実施する意義と事例紹介、【午後】NPO のための社会調査入門	15 人	
	講師	【午前】森祐美子（認定 NPO 法人こまちぷらす）、【午後】有海拓巳、石川翔大（株式会社浜銀総合研究所）		
第 7 回 12月12日	テーマ	いまだからこそ！ ファシリテーションのチカラ。with/after コロナの会議をスムーズに進めるコツ	12 人	オンライン
	講師	阿部剛（NPO 法人まつど NPO 協議会）		

②川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開催日	内 容		参加数	開催場所
第 8 回 2 月 6 日	テーマ	協働のリーダシップ 多様なプレイヤーを支え信頼される支援型リーダーとは	18 人	オンライン
	講師	長浜洋二（モジョコンサルティング合同会社、町田市地域活動サポートオフィス）		
第 9 回 3 月 27 日	テーマ	オンラインで初めてのグラレコ	16 人	オンライン
	講師	本園大介（グラフィックコミュニケーター）		

③川崎市との共催セミナー

NPO法人向け特別連続講座

「決算をのりきるためのNPO法人の会計と税務の基本」

開催日	内 容		参加数	開催場所
1 月 16 日	テーマ	NPO法人の日々の会計実務と決算	12 人	オンライン
	講師	講師：原 淳子（原淳子税理士事務所）		
1 月 23 日	テーマ	NPO法人の税務	12 人	オンライン
	講師	講師：原 淳子（原淳子税理士事務所）		

【別表2】

(ア) 役員派遣状況

開催日	主催者	テ ー マ	対象者	開催場所
11 月 6 日	多摩区	多摩区子育て支援者養成講座 「子育て支援イチ・ニ・サン」	市民	多摩市民館
11 月 10 日	川崎区	川崎区すくすく子育てボランティア養成講座 「ボランティアって何？～楽しく続けていくために～」	市民	川崎区役所
12 月 6 日	川崎市公園緑地協会	緑のボランティア育成事業・里山ボランティア育成事業 「コロナ禍における、緑のボランティアは不要不急か」	市民	多摩市民館
3 月 12 日	川崎市文化財団	パラアートミーティング アドバイザー	市民	総合自治会館
3 月 13 日	宮前市民館	宮前市民館生涯学習交流会 「コロナ禍における市民活動の現状と課題、そしてこれから」	市民	宮前市民館

(イ) 職員派遣状況

開催日	主催者	テーマ	対象者	開催場所
書類（コロナにより）	宮前区まちづくり協議会	活動支援金活動結果報告に係る講評・助言等	審査委員会	宮前区役所
6月8日	同上	第1回川崎区企業市民交流事業推進委員会	委員会	同上
6月15日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第1回交流推進部会	委員会	川崎区役所
6月28日	宮前区まちづくり協議会	活動支援金説明会及び審査会	委員会	宮前区役所
7月2日	幸区社会福祉協議会	幸区社協ボランティアセンター運営委員会	委員会	福祉パルさいわい
7月8日	川崎市社会福祉協議会	第1回福祉教育推進会議	職員	総合福祉センター
7月31日、10月29日	専修大学ネットワーク情報学部	専修大学ネットワーク情報学部「応用演習」でのかわさき市民活動団体の説明	学生	7月：オンライン 10月：生田キャンパス
9月6日	市民文化局コミュニティ推進部 協働・連携推進課	川崎ワカモノ未来 PROJECT ヒラメキ Lab のアドバイザー	市民	オンライン
9月8日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	臨港中学校出前授業	生徒	臨港中学校
9月24日	NEC玉川プロボノ倶楽部	チラシ講座「プロボノ活用におけるチラシ・ポスター制作のヒント」	社員	オンライン
10月15日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	川崎高等学校附属中学校出前授業	生徒	川崎高等学校附属中学校
10月15日	中原区生涯学習支援課	中原市民館保育ボランティア講座	市民	中原市民館
10月15日	宮前区まちづくり協議会	第3回宮前はなし会	会員	宮前区役所
10月29日	専修大学ネットワーク情報学部	専修大学ネットワーク情報学部「応用演習」中間確認	学生	オンライン
11月25日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第2回川崎区企業市民交流事業推進委員会	委員会	教育文化会館
12月6日	市民文化局コミュニティ推進部 協働・連携推進課	川崎ワカモノ未来 PROJECT ヒラメキ Lab のアドバイザー	市民	オンライン
2月3日	川崎市社会福祉協議会	福祉教育推進会議	職員	市社協6階会議室
3月15日	川崎区企業市民交流事業推進委員会	第3回川崎区企業市民交流事業推進委員会	委員会	区役所会議室

【別表3】職員研修

開催日	主催者	内容	開催場所
7月30日	アライド・ブレインズ	ホームページ改善支援セミナー集中講座	東京国際フォーラム
9月4日	日本NPOセンター	NPO支援センター初任者研修 2020	オンライン
10月6日	NPOサポートセンター	非営利団体の名刺活用	オンライン
10月13日	かながわ県民活動サポートセンター	ボランティア活動支援施設「スタッフセミナー」市民活動支援センターの役割とNPOの基礎知識	オンライン
10月27日	かながわ県民活動サポートセンター	ボランティア活動支援施設「スタッフセミナー」新聞記者に学ぶ 読まれる情報紙作りのコツ	オンライン
10月30日、 11月9日、 12月8日、 1月14日	パナソニック 日本NPOセンター	NPO支援の力を磨く！組織基盤強化サポート研修（オンライン）	オンライン
11月6日	「映像のまち・かわさき」推進フォーラム	「映像のまち・かわさき」推進フォーラム全体交流会 講演会「データで紐解くコロナ時代のオンラインイベント」	市役所第3庁舎
11月25日	アライド・ブレインズ	A・A・O 特別セミナー スマートフォンのアクセシビリティ対応/ 次期 JIS 改正の構え	東京国際フォーラム
12月9日	CR ファクトリー	With コロナ時代の市民活動をサポートする専門家・プログラム見本市	オンライン
1月7日、 2月11日	広域連携かながわ図上訓練実行委員会	広域連携かながわ図上訓練	オンライン
1月19日	CSO ネットワーク CI-Labo(シーアイ・ラボ)	第2回コミュニティー・インディケーター・フォーラム「目標・指標を活用した参加型の地域づくり」～CIC インパクト・サミット報告	オンライン
2月11日	神奈川県 おだわら市民交流センターUMEKO	企業・NPO・学校のつながり 2020in 小田原	オンライン
2月21日	近畿労働金庫	コロナ禍における市民活動を考える	オンライン
2月25日	非営利組織評価センター	ベーシックガバナンスチェック評価実績レポート（2020年度）報告会	オンライン
3月6日	川崎市 かわさき市民しきん	With コロナ時代のパラレルキャリア 川崎プロボノ部 2020 報告会	オンライン
3月17日	非営利組織評価センター	トラスト&イノベーションシンポジウム	オンライン
3月28日	トヨタ財団 こまちぷらす	トヨタ財団助成事業 市民参加促進プログラム報告会	オンライン

2 青少年健全育成事業

2020年度の主な取組は次のとおりです。これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター53館・わくわくプラザ102施設等の適切な管理・運営に努めました。

※2020年8月に小杉こども文化センターが開設され、こども文化センターが53館となりました。

(1) こども文化センター事業

ア 基本方針

子どもたちの安全確保を旨とし、遊びや行事等にも工夫を凝らし、子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所づくりに取り組むとともに、様々な世代が集まる地域の拠点としての機能の強化にも取り組みました。

また、新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発令され、こども文化センターは臨時休館（4月11日～5月31日）となりました。この間、職員はBCP（業務継続計画）に基づいた勤務体制を整えるとともに、こども文化センターの施設管理と、わくわくプラザの応援勤務に従事しました。

宣言解除以降は、計画的に運営を進めるため「こども文化センターの段階的な運営」を作成し、衛生管理を強化するとともに、利用時間、定員、活動内容や行事内容等について、段階的に運営を行いながら感染予防に努めました。また、2回目の緊急事態宣言（1月8日～3月21日）が発令された際は、臨時休館は行わず、利用時間の短縮等をしながら、児童の居場所の確保に取り組みました。

こども文化センターの段階的な運営

段 階	期 間	利 用 時 間	主 な 運 営 内 容 等
緊急事態宣言	4/11～ 5/31	臨 時 休 館	※緊急事態宣言は4月7日発令。対応、周知のため、4/11～臨時休館
第 1 段 階	6/1～ 6/18	月～土 9:30～19:30 日 祝 9:30～16:30	運動・飲食・行事・団体利用の禁止
第 2 段 階	6/19～ 7/9		個人で作業する活動・行事の再開 団体利用の再開（運動、夜間等を除く）
第 3 段 階	7/10～ 10/12	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30 ※利用時間は7/1～変更	飲食の再開 複数名で作業する活動・行事の再開（運動を除く） 密集を伴わない運動の再開 夜間の団体利用の再開
第 4 段 階	10/13～ 1/7	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30	定員50名以上の行事の再開 徒歩で行ける範囲での校外活動の再開 グループワークを含む行事の再開 大人による調理品を提供する行事の再開 歌唱・管楽器などの演奏を伴う行事の再開
緊急事態宣言 (2回目)	1/8～ 3/21	月～土 9:30～20:00 日 祝 9:30～17:30	第3段階の内容と同等 但し、調理を伴わないグループワークは実施可
緊急事態宣言 (2回目) 解 除 後	3/22～	月～土 9:30～20:30 日 祝 9:30～17:30	感染者数のリバウンドや医療のひっ迫防止に努めるため、月曜日～土曜日の利用時間のみ変更し、運営内容は上段を延長

こども文化センター利用状況推移表

利用者種別	2018年度 (52館)	2019年度 (52館)	2020年度 (53館)	前年度比較 (増減)
乳幼児	308,506人	284,338人	128,414人	▲155,924人
小学生	680,606人	615,983人	231,077人	▲384,906人
中学生	176,792人	152,000人	72,156人	▲79,844人
高校生	32,624人	28,437人	16,124人	▲12,313人
成人	413,773人	385,947人	189,987人	▲195,960人
利用者合計 (一館あたり)	1,612,301人 (31,006人)	1,466,705人 (28,206人)	637,758人 (12,033人)	▲828,947人 (▲16,173人)
内団体利用人数	271,519人	239,132人	126,521人	▲112,611人

※ 2020年8月に小杉こども文化センターが開設され、53館となりました。

※ 2020年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休館、利用時間の変更、運営内容の制限などを設けて運営しました。

イ 地域人材の育成と活動の場の提供

(ア) 運営協議会との連携強化

全てのこども文化センターでは、地域と連携した館運営を行うために、地域の皆さまが委員となった運営協議会を設置しています。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い、施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担うとともに、行事等にも積極的に参画するなど、その役割は多岐にわたっています。全市で91回（各館平均2回）の運営協議会が開催され、延べ800名の運営委員の方に参加していただきました。

また、各館では、運営協議会の委員の皆さまに、多くのご支援・ご協力をいただき「こすぎっこレンジャー」「MARUCO de あそぼう」「ゆりっこミニフェスティバル」「みんなでマスクチャームづくり」「猿まわしを見よう」「パッと光って咲いた」等の特色ある行事を開催しました。

各館の運営協議会で出された意見や結論を集約し、行事日程や事業内容の確認・調整など、こども文化センターの運営に活かしました。



こすぎっこレンジャー

(イ) 地域活動の担い手の育成機能強化

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ533回（各館平均10回）開催され、延べ2,898人（各館平均55人）が参加しました。子どもたち自身の企画・運営により「みやっこパトロール」「子どもスタッフ主催～おたのしみかい～」 「デュエマ大



みやっこパトロール

会」「T-Sports大画面でゲーム」「夏の怖い話会」「ウォーターサバゲースプラッシュ」「みんなで勉強会」等、様々な行事が実施されました。

また、中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし「夜間卓球の日」「百人一首大会」「GUITAR DAYS」「夜の映画会」等、様々な工夫を凝らした行事に取り組みました。



百人一首大会

これらの活動を通じて、子ども自身が地域の一員であることを自覚できるよう取り組み、地域活動の担い手となるよう育成・支援を図りました。

(ウ) 活動の場の提供機能強化

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ですが、児童の利用が少ない時間帯については、地域のボランティアや市民活動団体等の方々の活動の拠点として利用していただいています。

また、市民活動団体や地域の方々に協力いただき「バルーンアートを楽しもう」「骨盤ストレッチ&美脚ヨガ」「DAISHIキッズDANCE」「防災教室」等を企画・実施し、多世代連携を推進しました。

団体利用状況

団体種別	2018年度 (52館)	2019年度 (52館)	2020年度 (53館)	前年度比較 (増減)
青少年	2,943団体	2,765団体	1,744団体	▲1,021団体
市民活動	10,407団体	9,347団体	6,091団体	▲3,256団体
幼児G	5,645団体	5,231団体	3,867団体	▲1,364団体
その他	454団体	301団体	140団体	▲161団体
計	19,449団体	17,644団体	11,842団体	▲5,802団体

※ 2020年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休館、利用時間の変更、運営内容の制限などを設けて運営しました。

音楽室が設置されているこども文化センター4館については、新型コロナウイルス感染症予防対策として、状況に応じて音楽室の利用制限を設けながら利用していただいた結果、中学生・高校生のほか、地域音楽活動の拠点として延べ1,949団体・2,219人が音楽室を利用しました。

新型コロナウイルスに伴う音楽室の利用制限については【31頁：別表1】、各施設の利用状況については【31頁：別表2】に記載しています。

(2) わくわくプラザ事業

ア 基本方針

わくわくプラザは、すべての小学生を対象としています。そのため、日頃から小学校との連携を密にして、子どもたちの様子や学校の月間スケジュール、わくわくプラ

ザの行事日程等の情報交換を行っています。子どもたちが、放課後・土曜・長期休業日等に安心して楽しく過ごすことのできる、また、保護者が安心して子どもを託すことのできる事業運営に努めました。

また、緊急事態宣言発令期間中は、利用対象を医療従事者や社会の機能を維持するための職等とし、職種制限を設けて受け入れを行いました。宣言解除後は、密集を避けるため、保護者の就労等により「やむを得ない特別な事情で自宅にお子様を見守る方がいない家庭の児童」のみを対象とし、消毒や換気に努めるなど衛生管理を強化しながら運営しました。

わくわくプラザ利用状況 年間利用状況推移表

種 別	2018年度 (101施設)	2019年度 (102施設)	2020年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
在 校 児 童 数	65,731人	66,222人	66,159人	▲63人
登 録 児 童 数	31,934人 (1,049人)	32,731人 (1,465人)	23,736人 (1,331人)	▲8,995人 (▲134人)
登 録 率	48.6%	49.4%	35.9%	▲13.5%
利 用 人 数	2,132,105人 (98,509人)	2,127,963人 (138,424人)	1,278,703人 (114,783人)	▲849,260人 (▲23,641人)
1 日 平 均 利 用 者 数	7,302人 65,731人	7,338人 66,222人	4,701人 66,159人	▲2,637人 ▲63人

※ 2020年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、利用対象や運営内容に制限を設けて運営しました。

※ ()内は特別な支援を必要とする児童の内数です。また、2019年度より「障がい」のほかに、「集団が苦手」「てんかん」「重度アレルギー」「日本での生活が不慣れ」等、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

イ プログラムの充実

利用児童で組織する「子ども運営会議」は、延べ978回(各わくわくプラザ平均10回)開催され、合計25,654人(各わくわくプラザ平均252人)が参加し、子どもたち自身の企画・運営により「井田っ子探検パトロール」「逃走中」「医療従事者応援メッセージ」「わくわくスポーツイベント」「こどもリーダーとあそぼう」等、様々な行事が実施されました。

また、各施設の地域状況に応じて、関係機関(幼稚園・保育園、学校、老人いこいの家、高齢者施設、地域の寺子屋、子ども会、地域団体・人材、企業、行政機関等)と連携して

「宇宙教室」「ロボット・プログラミングによる動画づくり」「フィンランドとリモート 紙飛行機づくり」「リモートで!みんなでおどろう!」「カゴメ野菜チャレンジ」「ママのための救急救命講座」などを実施し、子どもたちに様々な体験活動を提供しました。



医療従事者応援メッセージ



ロボット・プログラミングによる動画づくり

ウ 学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図り、落ち着いて自学・自習ができる時間と場所を確保するため、平日の17:00～17:30までを、学習タイムとし、利用児童全てがこの時間帯に、学校の宿題や持参した学習ドリル等に取り組みました。土曜日・長期学校休業日等については、時間帯や活動時間は各施設のプログラムに合わせて、必ず実施しました。

また、宿題が終わった児童等に、東京学芸大学子ども未来研究所と朝日新聞社の共同研究を活用したあそびのプラットフォーム「すき！がみつかる 放課後ののしーと」を提供し、遊びながら勉強に取り組める環境を整えました。



放課後ののしーと

エ 「地域の寺子屋」との連携

川崎市は、元教員、地域住民、学生、保護者などが寺子屋先生となり、週1回、放課後に学習支援を行い、月1回、体験学習・世代間交流のイベントを実施する「地域の寺子屋事業」を推進しています。

わくわくプラザにおいては「地域の寺子屋事業」の学習支援の取り組みを見学し、土曜日の体験教室に参加するなど、連携強化に努めることを方針としています。

今年度については、新型コロナウイルス感染症予防対策を踏まえながら、寺子屋事業者と調整を行い「わくわくエンジンプロジェクト体験」「コスミックカレッジ」「川崎純情小町コンサート」等の体験教室にわくわくプラザ児童が参加しました。

また、寺子屋事業者に講師を依頼し「防犯教室」をわくわくプラザで開催しました。

オ 子育て支援・わくわくプラザ事業への対応

「子育て支援・わくわくプラザ事業」とは、川崎市が実施している事業で、就労等により、わくわくプラザの門限である午後6時までに児童のお迎えが難しい保護者のため、午後7時までわくわくプラザを延長するサービスのことです。当財団は、この業務を川崎市から受託し、全てのわくわくプラザで実施しました。

利用状況

種 別	2018年度 (101施設)	2019年度 (102施設)	2020年度 (102施設)	前年度比較 (増減)
登 録 児 童 数	2,601人 (67人)	2,841人 (136人)	2,684人 (118人)	▲157人 (▲18人)
延 べ 利 用 人 数	140,576人 (3,752人)	140,323人 (6,805人)	64,224人 (4,360人)	▲76,099人 (▲2,445人)
1日平均利用人数	576人 (15人)	587人 (28人)	264人 (18人)	▲323人 (▲10人)

※ ()内は特別な支援を必要とする児童の内数です。また、2019年度より「障がい」のほかに、「集団が苦手」「てんかん」「重度アレルギー」「日本での生活が不慣れ」等、特別な配慮を要する児童の対象範囲が拡大されました。

(3) こども文化センター・わくわくプラザ共通事項

ア 財団独自の取組

(ア) 複数館による合同事業の開催

施設の枠を超えた児童の親睦と交流の輪を広げることが目的とした様々な行事を、全施設が計画しました。

新型コロナウイルス感染症予防対策として、事前に準備会や予選等を行う参加者の分散化やオンラインの活用等、様々な対策を検討しながら取り組んだものの、2回目の緊急事態宣言の発令により、中止にせざるを得ない計画もあり、今年度については17回の事業が実施でき、延べ3,295人が参加しました。合同事業については【32頁：別表3】に記載しています。

また、子どもたちが共通の遊びに挑戦し記録を競う「こんちゃれ（今月のチャレンジ）」を毎月実施し、幼児から高校生までの延べ11,796人が参加しました。



こんちゃれ 紙ちぎりのぼし

(イ) いのちの大切さを伝える事業

子どもたちが「いのちの大切さ」について考える機会を設けるため、各施設で「東日本大震災をわすれない」「シェアドッグふれあい体験会」「MARUCO de 学ぼう」などの事業を実施しました。

また「いのちの大切さを伝える読み聞かせ事業」として「みらいへ～いのちのまつり～」「いじめのきもち」「いのちをいただく」「かぜのでんわ」「かあさんのこもりうた」「ずっとずっとだいすきだよ」等の本を読み聞かせました。

さらに、例年「被爆体験紙芝居」を実施して下さるNPO法人ナガサキピーススフィア員の火運動と連携し、15施設で紙芝居の朗読を開催したほか、今年度初めて「いのちの大切さを伝える事業～『百年の笑顔へ』世界の子どもたちの笑顔のパネル展～」を、14館のこども文化センターで実施しました。



東日本大震災をわすれない



『百年の笑顔へ』
世界の子どもたちの笑顔のパネル展

(ウ) 多様性への理解を深める事業

子どもたちが年齢・性別・障がい・国籍等、多様な人々への理解を深め、相手を思いやり、互いに認め合うことができる豊かな心を育成するため「支え合うってなんだろう」「しゃべりば コーディネーター加瀬さんと話そう」「世界の言葉であそぼう」「ボッチャ体験」などを実施し、多様性への理解を深める取り組みを推進しました。



支え合うってなんだろう

イ 多世代連携について

各施設では、地域の様々な特技・知識等を持つ方々にボランティア講師となっただき、地域の子どもと大人が共に遊び、育み合う環境を醸成する取り組みとして「やかん寄席」「殺陣ワークショップ」「こすぎっこステージ&チェロコンサート」「橘樹官衛を知ろう」「タブレットによるオンライン会話」等、様々な事業を実施し、ボランティアと子どもたちの交流を推進しました。



やかん寄席

また、こども文化センターまつりを多世代交流の象徴的な取り組みとして位置づけた方針としていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、まつり等の大規模な行事は中止となりました。

ウ 学校及び行政機関等との連携

円滑な事業運営に資するために、地域で開催される様々な会議（生涯学習推進会議、地域教育会議等の会議）に出席し、地域情報を得るとともに、こども文化センター・わくわくプラザの情報を提供するなど、情報の共有を図りました。

また、区役所（保健福祉センター・地域みまもり支援センター等）、地域団体（子ども会等）が実施する行事に積極的に参加し、地域関係機関等との連携強化に努めました。

なお、例年、区役所等が主催する子育てフェスタ等のイベントに、遊びや工作のブースを出展していますが、今年度は、縮小開催や中止などの措置が取られました。縮小開催となった場合は、各館が作成した事業紹介のポスター掲示や、子どもたちの塗り絵の展示などを行い、コロナ禍での連携に努めました。

主催者	開催日	事業名	内容	開催場所
幸区	10月10日～ 11月24日	みんなで子育てフェア さいわい	ポスター掲示	幸区全域 45ヶ所
中原区	8月25日	なかはら子ども 未来フェスタ2020	塗り絵展示	グランツリー武蔵小杉 2階
高津区	11月14日	高津区子ども・子育て フェスタ	ポスター掲示	高津市民館
宮前区	10月24日	宮前区子どもフェア	ポスター掲示	宮前市民館

エ 特別な配慮を必要とする利用者への対応方法

特別な支援を必要とする児童に対し、より適切な対応が行えるよう、元特別支援学校の教諭や小学校の校長経験者等の巡回相談員を9人配置しました。巡回相談員は、豊かな経験と専門知識を持ち、当該業務に従事するスタッフのアドバイザーとして、またスタッフ研修の講師として活躍しました。

また、学校や家庭との日頃からの連携・情報の共有に努めるとともに、発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター、放課後デイサービス等の関係諸機関との連携強化にも取り組みました。

オ 安全・安心の確保

(ア) 事故について

児童の安全・安心の確保は本事業の基本であり、職員一人ひとりがそのことを常に念頭に置いて日々の業務にあたるよう心がけました。

また、遊具の安全確認、適切な見守り配置、子どもたちへの声掛け、準備運動等、様々な取り組みについて定期的に見直すとともに、館長会議や各施設の会議にて、他施設での事故事例を共有し、類似事故の防止対策を検討することにより、本部・各館が一丸となって事故ゼロ運動を推進しました。

また、利用児童が怪我を負った場合は「事故対応マニュアル」に基づいて、迅速かつ適切な対応に努めました。

① こども文化センターでの事故について

こども文化センターで起きた4件の事故のうち、2件は階段の段を飛ばして降りる等の危険な行為がきっかけとなっています。こうした行為を未然に防ぐため、職員の定期的な見守りと声かけを強化しました。

過去5年間のこども文化センターにおける事故の件数

月	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
4月	1 (1)人	2 (1)人	2 (0)人	0 (0)人	0 (0)人
5月	1 (0)人	2 (1)人	3 (1)人	2 (1)人	
6月	3 (1)人	1 (0)人	4 (2)人	2 (2)人	
7月	2 (1)人	3 (1)人	1 (0)人	2 (0)人	0 (0)人
8月	1 (1)人	1 (1)人	3 (1)人	3 (1)人	1 (0)人
9月	2 (1)人	2 (0)人	2 (1)人	2 (0)人	0 (0)人
10月	2 (0)人	3 (1)人	2 (0)人	3 (0)人	1 (0)人
11月	4 (0)人	1 (1)人	4 (1)人	1 (1)人	0 (0)人
12月	2 (1)人	3 (1)人	2 (1)人	1 (1)人	1 (0)人
1月	3 (3)人	0 (0)人	1 (1)人	1 (1)人	0 (0)人
2月	3 (2)人	5 (5)人	2 (0)人	0 (0)人	1 (0)人
3月	1 (1)人	5 (1)人	0 (0)人	0 (0)人	0 (0)人
計	25 (12)人	28 (13)人	26 (8)人	17 (7)人	4 (0)人

* ()は4日以上通院の事故内数(2021年3月31日現在)

* 臨時休館(4月11日~5月31日)

② わくわくプラザでの事故について

わくわくプラザにおける事故件数は131件となっています。発生率の高い怪我としては、擦傷・打撲60件、捻挫・突き指17件、骨折（ヒビ含む）23件が挙げられます。

過去5年間のわくわくプラザにおける事故の件数

月	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
4月	12 (6)人	14 (3)人	21 (5)人	15 (3)人	6 (2)人
5月	16 (3)人	20 (3)人	14 (2)人	11 (3)人	2 (0)人
6月	11 (6)人	14 (6)人	15 (4)人	18 (4)人	6 (2)人
7月	13 (6)人	17 (4)人	11 (2)人	13 (4)人	15 (4)人
8月	4 (0)人	15 (5)人	8 (1)人	9 (1)人	7 (1)人
9月	12 (1)人	5 (0)人	4 (2)人	3 (0)人	9 (1)人
10月	17 (4)人	7 (3)人	9 (3)人	12 (4)人	14 (4)人
11月	14 (2)人	17 (5)人	16 (6)人	16 (3)人	16 (1)人
12月	19 (2)人	17 (4)人	10 (0)人	10 (0)人	22 (4)人
1月	6 (1)人	7 (3)人	12 (2)人	11 (1)人	6 (0)人
2月	8 (0)人	10 (1)人	9 (0)人	8 (1)人	12 (2)人
3月	11 (2)人	11 (0)人	9 (0)人	3 (1)人	16 (3)人
計	143 (33)人	154 (37)人	138 (27)人	129 (25)人	131 (24)人

* () は4日以上通院の事故内数 (2021年3月31日現在)

③ その他の場所での事故について

わくわくプラザの登下校時の事故は24件でした。

児童が退室する際は、気を付けるよう注意喚起をするとともに、一人帰りの児童の保護者へ対し、帰宅時間や経路について、児童と一緒に検討していただくよう、迎え時やたよりを通して働きかけました。

また、利用児童と共に地域の危険箇所を確認しながら安全マップを作成し、掲示することを通じて、子どもたちの安全意識の向上に努めました。

さらに、日本損害保険協会等が主催する「ぼうさい探検隊マップコンクール」において、応募総数960作品の中から向丘小学校わくわくプラザが審査員特別賞、三田こども文化センターが佳作に選ばれました。



向丘小学校わくわくプラザ 安全マップ

(イ) 感染症予防対策

感染症、食中毒等の予防策として、手洗い、うがいを励行するとともに、児童の弁当や行事に使用する食品の管理を徹底しました。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策については、次の取り組みを通して感染防止を図りました。

新型コロナウイルス感染症予防対策

衛生管理	<ul style="list-style-type: none">・当財団で雇用した産業医に、こども文化センター、わくわくプラザを巡視していただいた上で、衛生管理などについて、助言をいただきました。・産業医の助言に基づき、手洗い、手指消毒、マスクの着用、対人的距離の確保に努めたほか、適切な喚起や、机・テーブル・ドアノブ等、利用者が手を触れやすい場所の消毒等を実施しました。
予算確保	<ul style="list-style-type: none">・行政による「緊急包括支援交付金」を活用し、次の取り組みを実施しました。緊急包括支援交付金を活用し取り組みの総額は、79,834,338円となります。・衛生用品等のための消耗品費20万円、児童の接触を抑制するための図書費10万円、一人用遊具費2万円をこども文化センター及びわくわくプラザ各施設に追加配当しました。・本部にて、非接触体温計、環境測定器（co2モニター）、空気清浄機交換フィルター等の一括購入を行い、配布しました。・職員及び臨時職員に対し、個人が日常生活において感染を防止するために必要とする物品等の購入を支援する費用として、出勤日数に応じた支援金を支給しました。
感染判明時の対応	<ul style="list-style-type: none">・当財団の職員や学校の教職員、児童等が、陽性となった場合は行政、学校等と連携し、室内を徹底的に消毒しました。・必要に応じて、こども文化センターは臨時休館（利用時間の短縮を含む）、わくわくプラザは、臨時休室の措置を取りました。

(ウ) 防災対策

災害に備え、毎月、訓練を実施し、避難訓練や防災用品等の点検を行うとともに、災害伝言ダイヤルを活用した連絡手段を利用者に周知しました。

また、わくわくプラザでは、災害時等の対応について小学校と確認し、保護者に対して、連絡、引き取り方法等を周知するとともに、警報等が発令された際には、配信メールシステムを使用して、わくわくプラザの対応を周知しました。

(エ) その他の安全対策

① 防犯対策

各こども文化センターの外側に設置された防犯カメラを活用するとともに、訪問者の目的や様子を把握するため、職員からあいさつを行うなど、不審者の侵入を抑制しました。

また、各施設が学校や地域から不審者情報を得た場合は、利用者に注意喚起するとともに、本部を経由して他施設に伝達し、事件・事故の予防に努めました。

② 食物アレルギーへの対応

次の基本ルールを遵守し、子どもたちのアレルギー事故防止に取り組みました。

施設名	対応策
共通	① アレルギーのある児童が差別されないよう、食物アレルギーについての啓発活動に努める。 ② 児童がアナフィラキシーショックを起こした場合に備え、アドレナリン自己注射薬（エピペン）の投与等、応急処置ができるようにアレルギー研修の受講を職員に義務付ける。
こども文化センター	① 当財団が単独で主催する行事等で食物を提供する場合は、事前申込制とし、アレルゲンの確認については、児童ではなく、保護者にさせていただくことを基本とする。 ② 共催行事等で、食物を提供する場合は、上記ルールの適用を保護者や関係者の理解を得ながら進める。
わくわくプラザ	① わくわくプラザ登録時にアレルギーのある子どもの保護者に「食物アレルギー調査票」の提出をお願いし、さらにおやつ申込時に、原材料名（成分表）が記載されたメニュー表をもとに、保護者にアレルゲンチェックをお願いする。 ② 子どもにおやつを配布するときには、必ず複数の職員が「食物アレルギー調査票」に基づきチェックする。アレルゲンとなる成分が入っているおやつについては、当該児童の保護者に手渡す。このとき、おやつが食べられなかった児童には、十分な説明をする。

カ 環境整備の推進

(ア) 基本方針

老朽化が進んでいるこども文化センターの中には、建替え又は大規模修繕が必要なものがいくつかあります。今後、こうした施設の取扱いについて、市との協議を進めるため、施設整備状況確認調査を実施し、施設状況の把握に取り組みました。

(イ) 大規模修繕

30万円以上の施設・設備の修繕については、所有者である川崎市が行うこととなっていますが、安全・安心の確保や環境整備の観点から緊急度が高い場合については、市と協議のうえ、指定管理者が行っています。今年度は、田島小学校わくわくプラザの畳スペース補修工事を、川崎市と協議して当財団が実施しました。

(ウ) 小規模修繕・軽工事

30万円未満の施設・設備・用具等の修繕については、指定管理者が行うこととなっています。施設や用具等の安全管理については、日ごろから点検を欠かさず、破損や故障を発見した場合は、迅速に対応しました。

「夏季のエアコン不具合への対応」「照明設備」「換気扇」「水まわり」等電機系統を中心に、合計541箇所（総額24,285,419円）の補修・改修の工事を実施しました。また、簡易的な補修や書棚、遊具棚等の製作においては、昨年までと同様に、現場を熟知している元学校業務職の方々にご協力をいただき、迅速な対応を図りました。

キ 情報発信の取り組み強化

(ア) ホームページの活用

行事の開催・活動内容・団体への部屋の貸し出し状況等、施設に関する最新の情報を提供できるよう、定期的に掲載内容を更新しました。

(イ) かわさき子育てアプリの活用

行事の開催情報を定期的に更新し、子育て情報の周知向上を図りました。

※ かわさき子育てアプリは、川崎市内の子育てに係る情報を配信するアプリケーション（ソフトウェア）です。

(ウ) 地域メディアの活用

かわさきFMで毎月第4月曜日に放送されている『まちかどからお届け』に出演しました。アナウンサーがこども文化センターを訪問し、館の行事予定や活動の様子などが、生放送で伝えられました。

※ 新型コロナウイルス感染症により、4月・5月の出演を見送り、6月の放送から出演しました。

ク 効果的な研修計画の策定・実施

青少年健全育成事業のサービス向上には、職員の資質向上が欠かせません。「新任館長・職員研修」等の勤務経験や職位に応じた各種研修を計画的に実施するとともに、グループ、館ごとに、地域性を重視した研修を実施しました。

また、川崎市や他の団体が主催で行う研修に積極的に参加し、職員のスキルアップや資格の取得を進めるとともに、職員が必要とする研修を効率・効果的に受講できるように各館に職員ごとの研修受講名簿を備えました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、川崎市等が主催する研修等は、定員を縮小しての実施となりました。なお、川崎市主催研修の代替研修として、館長を対象に「人権研修会」を開催し、この研修会の録画映像を基に、館長が講師となった人権研修を全館で実施しました。

財団の主催する研修については、従来よりも広い会場やリモートで開催し、時間を短縮して実施しました。

各研修と受講者数については【33頁：別表4①】【34頁：別表4②】【36頁：別表4③】【37頁：別表4④】に記載しています。



新任館長・職員研修

ケ 教育実習・インターンシップ等への対応

例年、法人の社会貢献の一つとして、教育実習生、職業体験などを受け入れてきましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れを中止しました。

また、小・中学校の児童生徒がこども文化センターを訪問するまち探検（社会科見学）については、実施時間が短いことから受け入れ可能とし、20館に延べ858人が来館しました。

施設ごとの受入状況については【38頁：別表5】に記載しています。

コ いじめ等による子どもの変化の気づきについて

いじめや虐待、不登校等、子どもを取り巻く社会問題は多様化・複雑化が進んでおり、痛ましい事件も後を絶ちません。

川崎市からも、虐待の疑いなどの気づきがあった場合は組織的に対応し、複数の機関で見守る体制を整えることが求められています。

虐待が疑われる児童の報告フローや、早期発見のチェックリストを活用し、被虐待児の把握に努め、川崎市へ報告する体制を整えるとともに、各区要保護児童対策地域協議会に代表館長が出席し、情報共有に努めました。

また、コロナ禍でのいじめについては、新型コロナウイルスの検査で陽性になった児童や、濃厚接触者として特定された児童が不利益をこうむらないよう、細心の注意を払って対応しました。

（4） 地域子育て支援センター（連携型）事業

「地域子育て支援センター（連携型）」とは、川崎市が実施している地域子育て支援事業の一つで、比較的利用の少ない午前中のこども文化センターを活用し、子育て中の親子の交流の場や子育てに関する相談・援助の場として、また、地域の子育て情報の提供の場として設置されています。当財団は、この業務を今年度、6ヶ所で受託し、「ふぁみいゆ」という名称で週3日（9：30～12：30）開設しました。

新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発令され、こども文化センターが臨時休館になった間は、当事業も臨時休所（4月11日～5月31日）となりましたが、延べ11,404人の乳幼児親子が利用しました。

各施設の利用者数については【39頁：別表6】に記載しています。



ふぁみいゆ活動風景

（5） 小杉地区子ども・子育て支援推進事業

小杉地区の再開発に伴い、小杉こども文化センターが休止となったことにより、川崎市は、子ども・子育て世代が増加している小杉地区において、子どもが安心して安全に過ごすことのできる居場所として、また、小杉こども文化センターの代替的機能を持つ施設として「小杉地区子ども・子育て支援推進事業（愛称 小杉っこスペース）」を設置しました。

当財団では、この業務を2016年6月より受託し、運営してきました。

新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が発令された際は、こども文化センターに準じて臨時休館（4月11日～5月31日）となり、本年8月に小杉こども文化センターが開館したことに伴い、当事業を終了しました。

利用状況

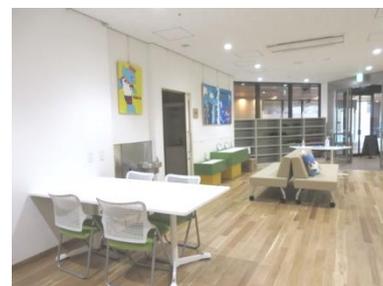
利用者種別	2018年度 (9月末まで)	2019年度 (9月末まで)	2020年度 (7月末まで)	前年度比較 (増減)
乳幼児	1,979人	2,301人	177人	▲2,124人
小学生	2,902人	2,847人	142人	▲2,705人
中学生	872人	743人	174人	▲569人
高校生	84人	82人	2人	▲80人
成人	2,115人	2,297人	169人	▲2,128人
利用者合計	7,952人	8,270人	664人	▲7,606人
内団体利用人数	0人	0人	0人	0人

※ 本表については、事業が7月末で終了していることから、2018・19年度についても、上半期の数値で比較しています。

(6) 小杉こども文化センター開設準備委託

小杉こども文化センターは、8月1日にコスギサードアヴェニュー3階に開館しました。

開館までの準備については、別途、開設準備業務委託を締結し、旧小杉こども文化センター運営協議会委員や地域の方々により構成された「運営協議会の再構築に向けた準備会」の開催や、必要備品の調達、臨時職員の雇用等、必要な準備を進め、小杉こども文化センターの開館に伴い、当事業を終了しました。



小杉こども文化センター
エントランスホール

【別表1】新型コロナウイルス感染症に伴う音楽室の利用制限

4/11~5/31	臨時休館
6/1~10/12	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮
10/13~1/7	対人距離を保てる定員を設定し、複数名での利用を可とする ※マスクを着用して歌唱、演奏。但し、管楽器等、マスクができない場合は、向かい合わせにならないようにする 5分程度の換気の時間を設ける
1/7~3/31	グループ（複数人）での利用を禁止 個人（1名）または同居家族での利用は可能 消毒・換気をする時間を30分以上とれるよう利用時間を短縮

【別表2】音楽室の利用状況

施設名	利用者	2018年度	2019年度	2020年度	前年度比較 (増減)
南河原	小学生	519人	468人	1人	▲467人
	中学生	197人	89人	26人	▲63人
	高校生	410人	358人	151人	▲207人
	一般	531人	688人	91人	▲597人
	合計	1,657人	1,603人	269人	▲1,334人
	団体数	703団体	811団体	262団体	▲549団体
小杉 2020年8月 開設	小学生			35人	
	中学生			40人	
	高校生			78人	
	一般			154人	
	合計			307人	
	団体数			190団体	
宮崎	小学生	44人	48人	18人	▲30人
	中学生	60人	26人	43人	17人
	高校生	836人	622人	46人	▲576人
	一般	1,242人	1,160人	894人	▲266人
	合計	2,182人	1,856人	1,001人	▲855人
	団体数	1,402団体	1,254団体	977団体	▲277団体
白山	小学生	20人	10人	12人	2人
	中学生	52人	34人	8人	▲26人
	高校生	508人	450人	287人	▲163人
	一般	1,227人	776人	335人	▲441人
	合計	1,807人	1,270人	642人	▲628人
	団体数	1,177団体	761団体	520団体	▲241団体
計	小学生	583人	526人	66人	▲460人
	中学生	309人	149人	117人	▲32人
	高校生	1,754人	1,430人	562人	▲868人
	一般	3,000人	2,624人	1,474人	▲1,150人
	合計	5,646人	4,729人	2,219人	▲2,510人
	団体数	3,282団体	2,826団体	1,949団体	▲877団体

※2020年8月に「小杉子ども文化センター」が開設されました。2019年度の利用状況から「小杉子ども文化センター」分を差し引いて今年度と比較した場合、合計人数は2,817人減となります。

【別表3】合同事業一覧

実施単位	開催日	内 容	参 加 数		開催場所（当日）
川 崎 区 1 ～ 3 G	12月5日	川崎区マンカラ大会 2020	事前	74人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	9人	
			合計	83人	
幸 第 1 区 G	12月25日	ポッチャ大会	事前	258人	幸こども文化センター
			当日	18人	
			合計	276人	
幸 第 2 区 G	2月20日	SG2 イラスト総選挙～いたらい いな♪こんなどうぶつ～	事前	572人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	20人	
			合計	591人	
中 原 区 第 1 G	3月26日	KOSUMARU ゲームラリー & ZOOM 報告会	事前	475人	グループ内6施設 ※当日リモート開催
			当日	46人	
			合計	521人	
中 原 区 第 2 G	3月26日	マンカラ交流戦	事前	98人	グループ内6施設
			当日	18人	
			合計	116人	
中 原 区 第 3 G	3月27日	マンカラ交流戦	事前	87人	グループ内6施設 ※当日リモート開催
			当日	24人	
			合計	111人	
中 原 区 第 4 G	10月21日	ふれあい交流会	当日	22人	新城こども文化センター
中 原 区 第 4 G	2月27日	ZOOMで4Gチャレンジ!	事前	338人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	19人	
			合計	357人	
子母口こ文 末長こ文	12月12日	橋樹官衛を知ろう	当日	44人	たちばな古代の丘 影向寺
高 津 区 第 3 G	3月27日	え～ なに～? 楽しそう!	当日	39人	グループ内10施設 ※当日リモート開催
多 摩 区 1 ～ 3 G	1月23日	ゴーゴーたまリンカップ! クイズ王決定戦2020	事前	238人	グループ内18施設 ※当日リモート開催
			当日	58人	
			合計	296人	
多 摩 区 第 2 G	2月27日	生田大橋に絵を飾ろう	事前	44人	各こども文化センター 生田大橋
			当日	11人	
			合計	55人	
多 摩 区 第 3 G	2月6日	地域ふれあいステージ	事前	113人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	38人	
			合計	151人	
中野島こ文 千代ヶ丘こ文	3月25日	ソーラン交流会	当日	49人	管轄内5施設 ※当日リモート開催

実施単位	開催日	内 容	参 加 数		開催場所（当日）
麻 生 区 第 1 G	2月12日	なんでも子ども Zoom 発表会	事前	416人	グループ内4施設 ※当日リモート開催
			当日	33人	
			合計	449人	
麻 生 区 第 2 G	2月17日	「リモート de こどもサミット ～コロナに負けるな!～」	事前	39人	グループ内7施設 ※当日リモート開催
			当日	39人	
			合計	78人	
麻 生 区 第 3 G	3月6日	フレンズカップ2020	事前	53人	各こども文化センター ※当日リモート開催
			当日	4人	
			合計	57人	

【別表4】研修実施状況

①財団主催研修（全市合同）

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
新 任 館 長 研 修	課長、主幹、係長、社会保険労務士	館 長	10人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅰ）	主幹、係長、主任、本部職員	館 長 職 員	27人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅱ）	主幹、係長、主任、本部職員	館 長 職 員	21人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （普通救命講習Ⅲ）	中原消防署	館 長 職 員	30人	中 原 消 防 署
新任館長・新任職員研修 （フォローアップ°研修）	主幹、係長、主任、本部職員	館 長 職 員	36人	財 団 本 部
主任本部体験研修 （全3日間開催）	本部職員 （職員係・施設係・事業係、 予算係・エリアマネージャー）	主 任	5人	財 団 本 部
主 任 研 修 （館長会議参加）	館長・本部職員	主 任	9人	財 団 本 部
主 任 研 修 （新任研修体験談発表）	本部職員	主 任	4人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅰ）	主幹、係長、主任、本部職員	館 長 職 員	12人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （事務研修Ⅱ）	主幹、係長、主任、本部職員	館 長 職 員	13人	財 団 本 部
新任館長・新任職員研修 （フォローアップ°研修）	主幹、係長、主任、本部職員	館 長 職 員	12人	財 団 本 部
人 権 研 修	かわさき子ども権利 フォーラム 代表 山田 雅太 氏 エリアマネージャー・館長	館 長 係 長 職 員 臨時職員	延べ 802人	生涯学習プラザ 財 団 本 部 各こども文化センター

②財団主催研修（グループ単位）

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
川崎区 第1G ～3G	川 崎 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	29人	日進町こども 文化センター
川崎区 第2G	防 犯 研 修	川崎臨港警察署 西澤氏・塚田氏	館 長 職 員 臨時職員	13人	大 師 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
川崎区 第3G	子どもの理解と対応	川崎区役所地域みまもり支援センター 地域支援課 杉山 安恵 氏 植松 幹太 氏 斎藤 由美 氏	館 長 職 員 臨時職員	34人	浅 田 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第1G ～2G	幸 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	25人	下 平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第1G	ポ ッ チ ャ 研 修	幸区役所 まちづくり推進 部 地域振興課 幸スポーツセンター 渡辺 和也 氏	館 長 職 員 臨時職員	14人	幸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第1G	防 犯 研 修	幸警察署 生活安全課 防犯係 根村 輝明 氏 佐藤 俊大 氏	館 長 職 員 臨時職員	17人	南 河 原 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
幸 区 第2G	中 高 生 対 応 研 修	大師こども文化センター 館長 櫻井 恵	館 長 職 員 臨時職員	13人	南 加 瀬 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第1G ～4G	中 原 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	29人	大 戸 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第1G	衛 生 管 理 研 修	巡回相談員 佐藤 治恵	館 長 職 員 臨時職員	19人	新 丸 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
中原区 第3G	中学生・高校生の 居場所づくり研修	平間こども文化センター 館長 川野 佳秀	館 長 職 員 臨時職員	19人	平 間 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高津区 第1G ～3G	高 津 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	25人	二 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高津区 第1G ～3G	食物アレルギー対応 研 修	NPO 法人 アレルギーを考える母の 会 代表理事 長岡 徹 氏	館 長 職 員 臨時職員	33人	宮 内 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高津区 第1G	危 機 管 理 研 修	高津区役所 危機管理担当 安藤 氏	館 長 職 員 臨時職員	23人	高 津 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高津区 第1G	応 急 手 当 研 修	巡回相談員 佐藤 治恵	館 長 職 員 臨時職員	21人	上 作 延 こ ど も 文 化 セ ン タ ー
高津区 第2G	衛 生 管 理 研 修	巡回相談員 佐藤 治恵	館 長 職 員 臨時職員	34人	二 子 こ ど も 文 化 セ ン タ ー

実施単位	研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
高津区 第2G	中高生対応研修	東高津中学校 生徒指導担当教諭 岩村 知幸 氏	職 員 臨時職員	15人	東高津こども 文化センター
高津区 第3G	来室者対応研修	子母口こども文化センター 主任 澤井 大輔	館 長 職 員 臨時職員	38人	末長こども 文化センター
高津区 第3G	他施設体験研修	高津区第3G 各わくわくプラザリーダー	臨時職員	16人	高津第3G 各わくわくプラザ
高津区 第3G	中学生・高校生の 居場所づくり研修	橋中学校 生活指導担当教諭 中本 幸枝 氏	館 長 職 員 臨時職員	30人	末長こども 文化センター
宮前区 第1G ～2G	宮 前 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	27人	宮崎こども 文化センター
宮前区 第1G	中高生対応研修	野川中学校 生徒指導担当教諭 小清水 豊 氏	館 長 職 員 臨時職員	26人	野川こども 文化センター
宮前区 第2G	不登校対応研修	ゆうゆう広場 小松 博樹 氏	館 長 職 員 臨時職員	15人	平こども 文化センター
多摩区 第1G ～3G	多 摩 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	25人	中野島こども 文化センター
多摩区 第1G	防災・施設管理研修	枅形こども文化センター 館長 小林 謙二	館 長 職 員	7人	長尾こども 文化センター
多摩区 第2G	中高生対応研修	生田中学校 生徒指導担当教諭 廣上 倫介 氏	館 長 職 員 臨時職員	13人	三田こども 文化センター
麻生区 第1G ～3G	麻 生 区 市民救命士養成講習	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	26人	王禅寺こども 文化センター
麻生区 第1G ～3G	けん玉指導研修	公益社団法人 日本けん玉協会神奈川県支部 橋本 雅之 氏 柳川 光子 氏	館 長 職 員 臨時職員	17人	麻生こども 文化センター
麻生区 第1G	ご意見・ご要望対応 研修	川崎区エリアマネージャー 川北 友	館 長 職 員 臨時職員	12人	千代ヶ丘こども 文化センター
麻生区 第2G	児童対応研修	柿生こども文化センター 館長 和田 淳二	館 長 職 員 臨時職員	32人	柿生こども 文化センター

③川崎市主催研修

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
第1回 特別な配慮が必要な児童への関わり方	川崎市教育委員会事務局 学校教育部指導課 小中高等学校支援 教育担当 伊藤 琢也 氏	館 長 職 員 臨時職員	61人	生涯学習プラザ
第2回 アレルギー対応	川崎市教育委員会事務局 学校教育部 健康教育課 築部 めぐみ 氏	館 長 職 員 臨時職員	60人	生涯学習プラザ
第3回 保護者・家庭との連携	NPO法人 乳幼児親子支援研究機構 理事長 石井 栄子 氏	館 長 職 員 臨時職員	61人	生涯学習プラザ
第4回 接 遇 ・ 応 対	エグゼクティブコンサルタント 花田 恵美 氏	館 長 職 員 臨時職員	60人	生涯学習プラザ
第5回 安全管理・事故防止	川崎市教育委員会事務局 学校教育部指導課 中原区・教育担当 担当課長 山川 佳美 氏	館 長 職 員 臨時職員	61人	生涯学習プラザ
第6回 中高生への関わり方	川崎市総合教育センター 教育相談センター指導主事 栗原 秀明 氏	館 長 職 員 臨時職員	61人	生涯学習プラザ
第7回 安全管理・事故防止	川崎市総務企画局危機管理室 川崎市ぼうさい出前講座	館 長 職 員 臨時職員	61人	生涯学習プラザ
第8回 外国につながる子どもの支援	川崎市教育委員会事務局 教育政策室 人権・多文化共生教育 指導主事 福岡 弘行 氏	館 長 職 員 臨時職員	61人	生涯学習プラザ
第9回 応急手当研修	公益財団法人 川崎市消防防災指導公社	館 長 職 員 臨時職員	40人	生涯学習プラザ
第10回 子どもの権利	川崎市子ども未来局 青少年支援室子どもの権利担当 森崎 杏菜 氏	館 長 職 員 臨時職員	85人	生涯学習プラザ
第11回 衛生管理研修	一般社団法人 川崎市食品衛生協会	館 長 職 員 臨時職員	45人	生涯学習プラザ
第12回 学校や地域との連携	共育ひろば 主宰 牧岡 英夫 氏	館 長 職 員 臨時職員	82人	生涯学習プラザ
第13回 児童虐待	川崎区役所 地域みまもり支援センター 地域支援課地域サポート係 課長補佐 齋藤 由美 氏 川崎市子ども未来局 児童家庭支援・虐待対策室 連携推進担当 鎌田 智之 氏	館 長 職 員 臨時職員	79人	生涯学習プラザ

研 修 名	講 師	対 象	参加数	開 催 場 所
第 14 回 L G B T Q	LGBT ユースの居場所・にじーず 代表 遠藤 まめた 氏	館 長 職 員 臨時職員	80 人	生涯学習プラザ
第 15 回 不 登 校 児 対 応	フリースペースたまりば 理事長 西野 博之 氏	館 長 職 員 臨時職員	32 人	生涯学習プラザ
第 16 回 特別な配慮が必要な児童への関わり方	発達障害を手がかりとした エンバーサルデザインコンサルタント 事務局長 橋口 亜希子 氏	館 長 職 員 臨時職員	44 人	生涯学習プラザ
野外活動 「スマート BBQ」 (全 3 回 開 催)	特定非営利活動法人 国際自然大学校 職員	館 長 職 員 臨時職員	117 人	黒川青少年野外 活動センター
野外活動支援 「ブッシュクラフト」 (全 3 回 開 催)	特定非営利活動法人 国際自然大学校 職員	館 長 職 員 臨時職員	117 人	黒川青少年野外 活動センター
遊びや活動の支援「コーヒー焙煎体験」 (全 3 回 開 催)	特定非営利活動法人 国際自然大学校 職員	館 長 職 員 臨時職員	66 人	黒川青少年野外 活動センター
遊びや活動の支援 「救急法」 (全 3 回 開 催)	Wilderness Medical Associates Japan (ひの社会教 育センター) 寺田 達也 氏 特定非営利活動法人 国際自然大学校 職員	館 長 職 員 臨時職員	45 人	黒川青少年野外 活動センター

④ 資格取得研修

研 修 名	講 師	対 象	取得者数	開 催 場 所
甲種防火管理者講習会	川崎市消防防災指導公社	館 長 係 長 主 任	11 人	かわさき保育会館 ユニコムプラザ さがみはら
甲種防火管理者講習会 (再 受 講)	川崎市消防防災指導公社	館 長	1 人	かわさき保育会館
神奈川県放課後児童支援 員 認 定 資 格 (10・11・2月開催)	(株)東京リーガルマインド	館 長 職 員 臨時職員	65 人	エポック中原

【別表5】教育実習等の受入状況

小学校・中学校生のまち探検（社会科見学）の受入状況（年間）

学 校 名	人 数	受 入 場 所	実施日数	
川崎区	旭町小学校	38人	旭町こども文化センター	2日
	浅田小学校	52人	浅田こども文化センター	1日
幸区	南河原小学校	9人	南河原こども文化センター	1日
	塚越中学校	6人	下平間こども文化センター	2日
中原区	西丸子小学校	9人	新丸子こども文化センター	1日
	玉川小学校	88人	玉川こども文化センター	1日
	木月小学校	75人	西加瀬こども文化センター	1日
	大谷戸小学校	102人	大戸こども文化センター	2日
高津区	上作延小学校	10人	上作延こども文化センター	3日
	高津小学校	12人	高津こども文化センター	1日
	末長小学校	7人	末長こども文化センター	1日
宮前区	宮崎小学校	14人	有馬こども文化センター	1日
	西野川小学校	5人	野川こども文化センター	1日
	野川中学校	6人	野川こども文化センター	1日
多摩区	三田小学校	91人	三田こども文化センター	1日
	中野島小学校	96人	中野島こども文化センター	2日
麻生区	西生田中学校	36人	百合丘こども文化センター	1日
	千代ヶ丘小学校	74人	千代ヶ丘こども文化センター	2日
	真福寺小学校	1人	白山こども文化センター	1日
	麻生小学校	127人	麻生こども文化センター	2日

その他、今年度は児童の来館が難しいため、児童の質問に書面や動画で回答し、授業で活用した事例もありました。

【別表6】地域子育て支援センター（連携型）事業 利用状況

区	施設名	種別	2018年度 (8施設)	2019年度 (8施設)	2020年度 (6施設)	前年度比較 (増減)
川崎区	ふあみいゆ殿町	児童	2,120人	1,437人	919人	▲518人
		成人	1,675人	1,170人	796人	▲374人
		合計人数	3,795人	2,607人	1,715人	▲892人
	ふあみいゆ田島	児童	1,666人	1,588人	664人	▲924人
		成人	1,421人	1,393人	650人	▲743人
		合計人数	3,087人	2,981人	1,314人	▲1,667人
	ふあみいゆ浅田	児童	2,255人	1,527人	862人	▲665人
		成人	1,789人	1,266人	758人	▲508人
		合計人数	4,044人	2,793人	1,620人	▲1,173人
幸区	ふあみいゆ南河原	児童	2,751人	2,084人	1,180人	▲904人
		成人	2,587人	1,967人	1,141人	▲826人
		合計人数	5,338人	4,051人	2,321人	▲1,730人
	ふあみいゆ小倉	児童	2,633人	2,616人		
		成人	2,295人	2,350人		
		合計人数	4,928人	4,966人		
中原区	ふあみいゆ平間	児童	2,058人	1,929人	1,230人	▲699人
		成人	1,962人	1,792人	1,063人	▲729人
		合計人数	4,020人	3,721人	2,293人	▲1,428人
麻生区	ふあみいゆ千代ヶ丘	児童	2,464人	1,839人		
		成人	2,236人	1,637人		
		合計人数	4,700人	3,476人		
	ふあみいゆ柿生	児童	1,213人	1,314人	1,072人	▲242人
		成人	1,164人	1,292人	1,069人	▲223人
		合計人数	2,377人	2,606人	2,141人	▲465人
合計	児童	17,160人	14,334人	5,927人	▲8,407人	
	成人	15,129人	12,867人	5,477人	▲7,390人	
	合計人数	32,289人	27,201人	11,404人	▲15,797人	

※ 2020年度より「ふあみいゆ小倉」及び「ふあみいゆ千代ヶ丘」が他団体の運営となり、6館受託になりました。

※ 2019年度の利用状況から「ふあみいゆ小倉」及び「ふあみいゆ千代ヶ丘」分を差し引いて今年度と比較した場合、合計人数は7,355人減となります。

3 法人の運営

2010年に公益財団法人としての認定を受け、その後、効果的な公益目的事業の実施と法人としての役割・機能が発揮できる組織づくりを本部と現場が一体となって取り組みを進めてきました。また、当財団が実施している事業や財務に関して広く市民へ説明する責務を自覚して法人の運営を行いました。

ア 業務・組織の改革

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化を図り、組織の総合力向上に努めました。

組織としての一体感の醸成や職員のスキルアップを図るため、各種研修等を実施するとともに、職員の意識改革の促進と人材育成にも取り組みました。

また、簡便性を持ったクラウド環境によるワークフローシステムの導入を進め、8月から新システムに移行し、業務の効率化を図りました。

さらに、会議や研修などの実施に向け、オンラインによるシステムを導入し、コロナ禍での対応は元より、今後の業務のあり方の1つとして位置づけることにより、業務幅の拡大が可能となりました。

イ 財務改善

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計を的確に行うため、2013年9月1日からP C A公益法人会計ソフトを導入して実施しています。2014年度からは諸謝金の会計処理業務を委託から経理担当での直接実施に切り替えることにより、経費削減を図りました。また、各課との連携を図り、円滑な事務処理を行いました。

適正な会計処理の継続的な実施に向け、各課に周知徹底を図りながら経理事務の改善を推進するとともに、安定した公益財団法人の経営を維持するために適切な財務管理を実施しています。

ウ その他

2019年度の事業報告書等の提出については、関係書類等を作成し監事監査を経て、理事会及び評議員会(定時評議員会)での承認を受け、6月29日に行政庁(神奈川県)へ報告しました。関係書類等については事務所に備え置くとともに、貸借対照表を公衆の見やすい場所に掲示しました。

2021年度の事業計画書及び収支予算等の提出については、第4回理事会で承認を受け、3月26日に行政庁に報告しました。